

落語「朝から補聴器」

柘植勇人（芸名 駒久家南朝）

つげ耳鼻咽喉科院長

難聴になると聞き返しや聞き間違いが多くなります。会話がスムーズにできないと家族や友人が遠ざかり孤独に陥ります。また、言葉を聴き脳で理解し、声を出して会話する能力が低下すると認知症も進行します。難聴には補聴器が有用ですが眼鏡と異なり補聴器は装用しても直ぐには快適に聞こえません。補聴器は多少うるさくても長時間装用して慣れることが大切ということを、「朝から補聴器」という題材で分かり易く落語で解説します。

私は愛知県の蒲郡市という、小さな町の開業医で学生時代から落語研究会に所属しておりました。蒲郡市を中心に医療ネタの創作落語活動を地道に30年近く続けてきましたが、NHKが目ざとく嗅ぎ付け、医師会の在宅医療フォーラムで披露した落語「朝から補聴器」を取材に来ました。出来栄が良かったのか、何と7月17日のNHKの全国版「おはよう日本」で放映されました。

落語のストーリーは、親子3代の家庭を舞台に、若者に負けちゃおらんと粋がる難聴の爺ちゃんとお嫁さん、孫が繰り広げる聞き間違いによる失敗の数々。困り果てた挙句、何とか補聴器を使ってもらいたいお嫁さんと爺ちゃんが繰り広げる微笑ましいバトルに抱腹絶倒していただけること間違いなし！



NHK おはよう日本



一般社団法人 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
Japanese Society of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery